

小川圭治氏の逝去を悼む

小川圭治氏は、二〇二二年一月十七日逝去され、二十一日日本基督教団信濃町教会で葬儀が行われた。享年八十四歳。謹んで哀悼の意を表す。

氏は一九二七年大阪市に生まれ、(旧制)浪速高等学校(理科甲類)卒業。京都大学文学部哲学科(キリスト教学専攻)を一九五一年に卒業後、大学院特別研究生を経て、バーゼル大学でカール・バルトに師事(一九六〇～六三年)、論文「Die Bedeutung und Grenzen der Kierkegaard-Renaissance」で神学博士の学位を得た。

職 歴

- 一九五四年 日本ルーテル神学校専任講師
- 一九五六年 東京女子大学文理学部専任講師、次いで助教、教授
- 一九七七年 筑波大学哲学思想系教授、九一年名誉教授
- 一九九一年 尚絅女学院短期大学学長、九七年名誉教授
- 一九九七年 関東学院学院長、二〇〇二年退職

主要著書

- Die Aufgabe der neueren evangelischen Theologie in Japan, Basel 1965
- 『主体と超越 キルケゴールからバルトへ』創文社 一九七五年

『キルケゴール』(人類の知的遺産48) 講談社 一九七九年
『神をめぐる対話 新しい神概念を求めて』新教出版社 二〇〇六年

バルト『ローマ書講解』(岩波哲男と共訳) 河出書房 一九六八年(二〇〇一年に平凡社ライブラリーに収める)

キルケゴール『哲学的断片への結びとしての非学問的あとがき』(キルケゴール著作集7、8、9)、(杉山好と共訳) 白水社 一九六八～七〇年

E・ブッシュ『カール・バルトの生涯1886～1968』新教出版社 一九八九年

バルト『神学史論文集』(カール・バルト著作集 4)、(井上良雄、吉永正義と共訳) 新教出版社 一九九九年

他に日本のプロテスタント教会史、日韓キリスト教史にかかわる編著書があり、T R Eの「Japan」の項目(Band 16)も氏の寄稿。氏はまた京大キリスト教学で集中講義を担当された。キリスト者平和運動に尽力。バルトの研究会(日本カール・バルト協会)をとおして多くの後進を育てた。氏の学問的努力は、近現代の哲学と神学をとおしての福音的キリスト教の追究にささげられたといつてよい。智子夫人と御家族に慰めと祝福をお祈りする。(水垣 渉)